

令和4年度 東京都立砂川高等学校学校経営報告（定時制課程）

東京都立砂川高等学校

校長 南齊 道雄

定時制課程では、平成28年度より自立支援チーム継続派遣校の指定を受け、学校生活での課題解決による登校の継続と進路決定に取り組んでいる。令和3年度においては重点目標として（1）不登校解消・不登校未然防止（2）全教員での情報共有（3）グランドデザインに基づく生徒のコミュニケーション力育成を掲げ、学力向上、生徒の居場所作り、学習・進学意識の醸成、相談活動の充実等の様々な具体的な取組みを実施してきた。今年度は新型コロナウイルス感染症対策も定着し、感染を予防しつつ徐々にコロナ以前の教育活動に近づいた一年であった。

令和4年度の学校経営計画に記した今年度の重点目標と数値目標について、具体的取組みの成果とその達成度を以下に示す。

1 今年度の重点目標

【教務部】		
	内 容	評価
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外学習（放課後・長期休業中の補習等）をさらに充実させる。 (2) 授業の質・量の確保を図るとともに、各教科で本校における学力スタンダードを作成し、授業改善・生徒の学力向上に取り組む。 (3) 少人数指導・習熟度別授業を生かし、個に応じた学力の伸長を図る。 (4) 学校外の学修（資格取得）への取り組みを推奨する。 (5) 3修制（3年間での卒業）を推奨する。 (6) 学力向上研究校として基礎学力が不十分な生徒への支援を行う。（「校内寺子屋」事業に取り組む） (7) 通信制課程との連携を考察し今後も進めて行く。 (8) 教務部内の仕事の組織化とOJTを推進する。 (9) 礼を正すという意味で、授業の始まりと終わりの挨拶をきちんと行う。 (10) 教務部内の業務の効率化や会議等の時間短縮などライフワークバランスに配慮した働き方改革を推進するように努める。 (11) オンライン学習・遠隔教育などを考察し、ICTを活用した学習を推進して行く。 	
具体策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新学習指導要領について教科主任会・教育課程委員会で検討を進め令和4年度入学生の教育課程を確定する。 (2) 教科主任会・教科会を定例開催し、情報と課題を共有して授業改善に取り組む。長期休業中の講習の枠組みなど、組織化を図っていく。 (3) 観点別評価による年間授業計画及び週案を各教科で円滑に進められるようにする。 (4) 各教科との連携を通して、学校全体で基礎学力の向上から応用力をつけることの充実を図る。発展的な学習に取り組んでいける生徒、時間をかけ基礎力から取り組んでいる生徒双方に、個に応じた指導を行い、学力の向上を図る。 (5) 通信制との連携を模索してより卒業できる環境を考察し履修規定等について検討考察を行う。 (6) 会議等の効率化・スリム化を図り、授業準備時間を確保し、授業改善に取り組むための環境を整備して行く。 (7) 各授業で授業の目的・到達度目標を生徒に明示し、学習に集中して取り組む動機づけとする。また、資格試験への挑戦も促していく。 (8) 生徒の学習意欲向上のためのICTの活用を図る。（使い易い環境の整備を進める）そのために研修会を実施する。 	
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 卒業年次生の卒業率95%以上（4月当初卒業年次生142名中134名以上） 卒業生141名）3月11日現在141名 / 142名 99.3% (2) 中途退学率3%以下（13名以下）（4月7日在籍456名の3%→13名） 7名1.6% 	

	(3)「転学・転籍者数 10名以下(2.5%以下) 18名 3.9% (4)長期休業中の補習・講習の開講講座数 35以上 当初予定数 44講座 実施数 36講座 (5)学校外における資格取得(技能審査) 70件以上 64件(91.4%) (6)生徒による授業評価 生徒の授業に対する肯定的評価90%以上 1年次 92% 2年次 75% 3年次 83%	A
【生徒指導部】		
	内容	評価
重点目標	(1)規範意識やマナーを体得した生徒の育成 (2)生徒の心身の課題の把握と支援の充実 (3)いじめ・体罰のない安全・安心な学校	
具体策	(1)全教職員が生徒指導に関わりやすくなるような体制や方法の整備 (2)行事や学校生活において生徒指導部と生徒が関わる機会の増加 (3)指導や支援の情報を蓄積し共有できる方法の整備 (4)学校行事における委員会・部活動の積極的な活用 (5)感染症対策と行事や学校生活の両立を図る工夫	
数値目標	(1)集団生活におけるルールや社会のマナーが守れたという生徒が80%以上 (2)行事(スポーツ大会・文化祭)への参加者満足度80%以上 (3)部活動入加入率50%以上	B
【進路指導部】		
	内容	評価
重点目標	(1)生徒一人一人への支援と自立意識の啓発 (2)砂川高校のキャリア教育の充実 (3)地元企業との連携	
具体策	●生徒一人一人の個に応じたきめ細かな指導を行う。 ●進路実現を確実に行うため、旧年度よりも早期からの取り組みを行う。 ●以下の各項目への取り組みを行う。 (1)キャリア教育指導体制の確立 砂川高校のキャリア教育の計画の策定および推進 (2)1年次初期の学習習慣の確立と進路意識の啓発指導 家庭等における学習習慣の確立 (3)年次への適切な進路情報の提供と進学・就職ガイダンスの充実 ①各大学入試に応じた進路指導の充実 ②総合型選抜、学校推薦型選抜に対応した小論文指導の充実 (4)キャリアガイダンスの充実 ①3年間を通じた系統的な指導活動の実現 ②グループによる体験的な学習活動等により、意欲と社会的基礎的能力を育成 ③生活に関する基礎的な理解と適切な職業理解・職業観の育成 ④東京都の「企業・NPO等と連携した『社会的・職業的自立』支援事業」の活用 ⑤進路未決定者に対するYSW・NPO法人育て上げネットと連携した指導の充実 (5)地元企業との連携 多摩ブルー・グリーン倶楽部を中心とした地元優良企業との連携	
数値目標	就職希望者内定率100%。 大学・短大・専門進学及び就職以外の生徒の割合15%以下を継続する。 3月15日現在 82%	B

【総務部】		
	内容	評価
重点目標	以下の業務を滞りなく実施する。最重点目標は入選倍率の確保。前後期共、学校数値目標に近づけることを意識して取り組む。 (1) 対象者の心情を察し、かつ効果的な広報活動の企画運営 (2) 学校ウェブ（本校ホームページ、学校連絡サービス）の充実 (3) 総務部としての仕事の組織化 (4) 奨学金制度による就学支援を行う (5) 学校・保護者・生徒間の連絡システムの確保	
具体策	(1) 全職員の協力体制を仰ぎながら、体験授業や学校説明会等広報活動の企画運営を行う。 (2) 学校ウェブ（本校ホームページ、学校連絡サービス）を月2回以上更新し、学校内の情報を広く発信する。 (3) 部会を定期的に設定し、全体の仕事の進め方を相互に確認する。 (4) 奨学金等説明会を実施し、学校連絡サービス等を使用して生徒への周知を徹底させる。 (5) 学校連絡サービスの加入促進、組織的な利用、管理維持を適切に行う。	
数値目標	・入選倍率 前期 1.3 倍、後期 1.2 倍（前年度 前期 1.43 倍、後期 1.26 倍） →今年度 前期 1.58 倍、後期 1.1 倍 ・ホームページアクセス数：年間 120,000 件以上（前年度 121,660 件） →今年度：216,733 件（2023 年 3 月 10 日時点） ・学校説明会等、校内募集対策行事参加者数 1,000 名以上（前年度 1,306 名） →今年度およそ 1,202 名	A
【保健相談部】		
	内容	評価
重点目標	1 穏やかに安心して学べる学校の実現を目指す 2 怪我などを少なく安全な学校の実現を目指す 3 学校環境の整備を通して、安らげる学習環境の実現を目指す 4 生徒の健康増進の啓蒙活動に努める	
具体策	1 生徒の実態把握や留意すべき生徒の情報収集に努め、全職員に継続的に情報を提供する。 2 必要な生徒を外部専門家につなぎ、適切な支援体制をつくる。 3 外部専門家等の相談内容や記録を保管し、継続的な支援を行う。 4 生徒理解のための研修や情報交換、カンファレンスを適宜行う。 5 保健室の来室目的を適切につかみ、個に応じた対応と指導をする。 6 通信を発行し、情報提供や保健指導を行う。 7 「総合的な学習の時間、探求の時間」を使い、ソーシャルスキルや多様性の理解に関する講座を主催し生徒の成長を促す 8 校内美化と学習環境整備について美化委員、保健委員の指導にあたる。	
数値目標	1 保健室の来室者数 保健室利用生徒数（1 月 1 7 日現在）（人） 今年度 569 人（内訳 内科：394 人 外科：163 人 その他：12 人） 昨年度 502 人（内訳 内科：316 人 外科：153 人 その他：33 人） 月別の来室人数は、6 月、9 月、11 月の来室人数が多い。休み明けや学校行事後に、人間関係や学校疲れなど様々な理由で保健室来室が多くなる傾向がある。 2 外部専門家相談数（延べ人数 2 月末まで延べ数） SC：生徒 201 保護者 78 他 6 名 合計 285（昨年 250） YSW：生徒 134 保護者 14 他 16 合計 164（昨年 78） SC 面談は、やや増加している。保護者面談の数も多い。YSW 面談は大幅に増加している。YSW が今年度不登校対策の一環として、中学時に長期欠席であったが、高校	A

	<p>で登校できている生徒の面談を行ってもらっている。</p> <p>3 1年次生徒の不登校解消率</p> <p>1) 不登校解消率 (中学3年次 30日以上欠席だが、高校 30日未満の欠席) 50% 28名 ➡ (30日未満) 14名 (30日以上) 14名</p> <p>2) 不登校出現率 (中学3年次 30日未満の欠席だが、高校 30日以上の欠席) 7.5% 11名</p> <p>4 教育相談委員会およびケース会議 教育相談委員会 4回開催。今年度は「生徒の現状把握と自立」をテーマとした。 ケース会議 2回開催。対象生徒: 3名 児相、子家センも参加した。</p> <p>5 学校生活支援シート作成状況 1年次 7名</p>	
【1年次】		
	内容	評価
重点目標	<p>(1) 自立した大人になるために、知識・技能を深め、思考力・判断力・表現力を培う。</p> <p>(2) 義務教育段階の学習内容の確実な定着を図り、学習習慣の確立や学習意欲の向上を目指す。</p> <p>(3) 社会生活を営む上での規範を身につけさせる。</p> <p>(4) 学校行事やホームルーム活動を通じて他人を思いやる心を学び、好ましい人間関係の形成をしていく。</p>	
具体策	<p>(1) 総合的な探究の時間等を活用し、自己の将来の生き方や進路について考えさせ、そのために必要な授業や家庭学習の大切さを各教科と連携し、粘り強く指導をしていく。</p> <p>(2) 各分掌や外部の専門機関との連携を密にし、個々の生徒の特性等に適切に対応する。また、挨拶の励行、遅刻・身だしなみ指導等について、教員間の共通理解の下に協力して一貫性のある指導を組織的に展開する。</p> <p>(3) 生徒が主体的に取り組む意欲をもって、自己実現に必要な能力を養うとともに、共に学び、活動することを通して存在感や自己実現の喜びの得られる機会として、ホームルーム活動や学校行事等を活用していく。</p>	
数値目標	<p>(1) 成績優秀者 20名以上</p> <p>(2) 年間特別指導件数 5件以下</p> <p>(3) 出席不良者 15名以下、皆勤学期 15名以上</p>	B A C
【2年次】		
	内容	評価
重点目標	<p>(1) 自立した大人になるために、知識・技能を深め、思考力・判断力・表現力を培う。</p> <p>(2) 基礎学力及び学習習慣の定着を図らせ、成績優秀者数の増加を目指す。</p> <p>(3) 主体的に規則正しい生活を送らせ、出席不良者数・退学者の減少を目指す。</p> <p>(4) 互いの個性を尊重し、敬愛心を養い、コミュニケーション力を伸ばす。</p>	
具体策	<p>(1) 総合的な探究の時間等を活用し、自己の将来の生き方や進路について考えさせ、そのために必要な授業や家庭学習の大切さを各教科と連携し、粘り強く指導をしていく。</p> <p>(2) 各分掌や外部の専門機関との連携を密にし、個々の生徒の特性等に適切に対応する。また、挨拶の励行、遅刻・身だしなみ指導等について、教員間の共通理解の下に協力して一貫性のある指導を組織的に展開する。</p> <p>(3) 生徒が主体的に取り組む意欲をもって、自己実現に必要な能力を養うとともに、共に学び、活動することを通して存在感や自己実現の喜びの得られる機会として、ホームルーム活動や学校行事等を活用していく。</p>	
数値目標	<p>(1) 成績優秀者 20名以上 結果 30名</p> <p>(2) 年間特別指導件数 5件以下 結果 1名</p> <p>(3) 出席不良者 30名以下 結果 56名</p> <p>皆勤 20名以上 結果 10名</p> <p>退学者 5名以下 結果 3名</p>	B+

【3年次以上】		
	内容	評価
重点目標	(1) 生徒自身が自らの学習上の課題を正確に把握し、目標を立て、その達成に向かって努力し続ける意欲・態度を身に付けさせ、成績優秀者数の増加を目指す。 (2) 様々な課題に柔軟かつ適切に対応し、社会人、職業人として自立していくための未来を切り拓く力を育む。 (3) 特定の分野で活躍することや、自分の得意なことで力を発揮することを通して、自分の個性を認識し、これからの東京・日本を支える人材の育成を目指す。	
具体策	(1) 各教科や進路指導部と連携を密にし、各クラス担任が生徒一人一人の学習における課題を把握し、この課題の解決に向けて面談や学校連絡サービスなどを通じて、生徒や保護者に指導・助言を図る。また学習習慣の確立やさらなる学力の伸長が進路実現に繋がることを粘り強く指導していく。 (2) 自他の生命の尊重、規律ある生活など、将来、社会において生きていく上で求められる道徳的価値や人間としての在り方や生き方に関する意識を深めるために、生徒指導部やSC、YSWなどの関係機関との連携や学校連絡サービスを通じて保護者との連携を密にする。 (3) 進路指導部を通じて、関係機関（大学・専門学校・企業）との連携を図り、高校卒業後の自己の在り方や生き方を意識させることを目的とした「総合的な探究の時間」や「LHR」、長期休業期間の時間の活用を実践する。	
数値目標	(1) 年間成績優秀者25名以上 ➡ 47名 (2) 年間出席不良者10名以下、年間皆勤10名以上 ➡ 45名、8名 (3) 進路決定率90%以上 ➡ 85%	A B B

2 今年度の数値目標

評価項目	目標値	結果
1 不登校発生率	4.0%以下	7.5%
2 不登校解消率	70%	50%
3 中途退学者数	10名以下	13名
4 転学・転籍者数	10名以下	22名
5 年間皆勤生徒	各年次10%	1年次 10.0% 2年次 6.6% 3年次 6.0%
6 年間精勤生徒（遅刻、早退、欠席の合計数が10回以内）	各年次30%	1年次 34.6% 2年次 12.0% 3年次 8.0%
7 特別活動の充実（部活動加入率）	50%以上	46.0%
8 卒業生徒の進路決定率	90%以上	82.2%
9 学校ホームページアクセス件数（年間）	120,000件以上	216,733件
10 入試倍率（分割前期・後期）	前期1.3倍以上 後期1.2倍以上	1.58倍 1.09倍
11 生徒による授業評価 授業満足度	90%	83.3%
12 学校評価 学校満足度	80%	79.5%
13 学校説明会参加者数（校内実施分）	1,000名以上	1,202名
14 教職員の超過勤務月45時間以内	超過人数0名	年間のべ25名